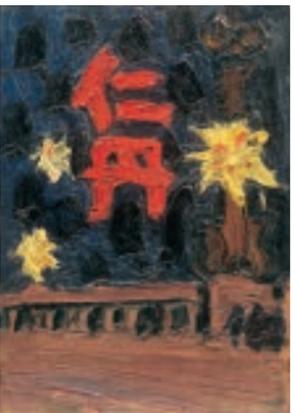
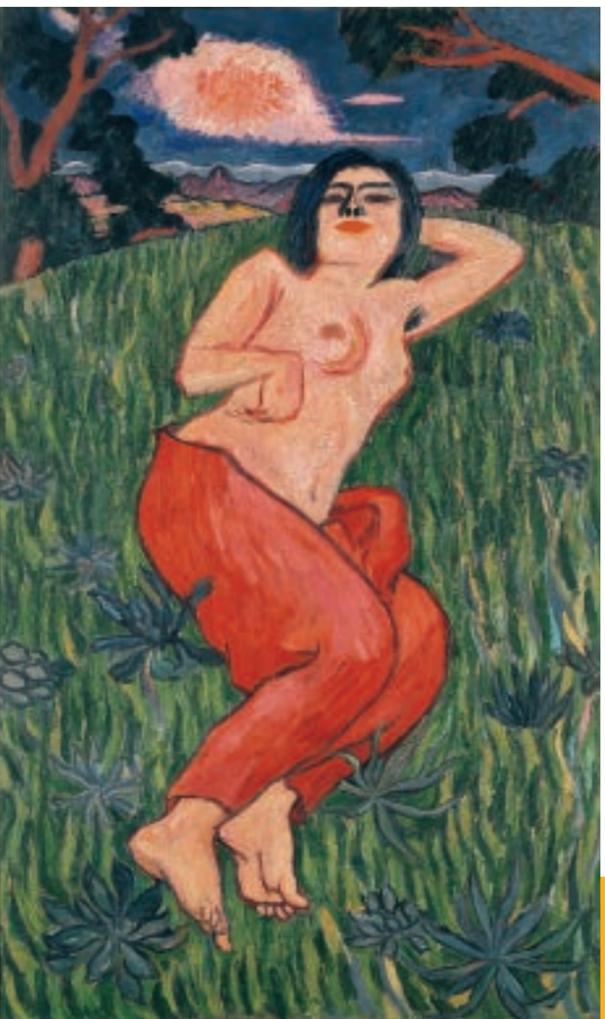


自分の自然を表わせばよい。——「鉄人独語」より



9	7	6	5	4	3	1
10	8					2

- 1.《太陽と道》 1912(明治45・大正元)年頃 萬鉄五郎記念美術館蔵
- 2.《裸体美人》 1912(明治45)年 東京国立近代美術館蔵 重要文化財
- 3.《仁丹とガス灯》 1912(明治45・大正元)年頃 岩手県立美術館蔵
- 4.《ガス灯》 1913(大正2)年頃 横須賀美術館蔵
- 5.《川辺の石垣》 1914-16(大正3-5)年頃 萬鉄五郎記念美術館蔵
- 6.《日の出》 1919(大正8)年頃 萬鉄五郎記念美術館蔵
- 7.《風景》 1922(大正11)年頃 個人蔵
- 8.《筆立のある静物》 1917(大正6)年 岩手県立美術館蔵
- 9.《秋景農夫図》 1922(大正11)年頃 萬鉄五郎記念美術館蔵
- 10.《水着姿》 1926(大正15)年 岩手県立美術館蔵

萬鉄五郎(よろぎ・てつごろう、一八八五—一九二七)がその才能を開花させたのは、明治末年から大正初めのことでした。十九世紀後半に日本に本格的な移入が図られた西洋絵画と東洋の伝統を融合させ、独自の世界を作り上げた萬鉄五郎の全貌を紹介します。

岩手県土沢(現在の花巻市)で生まれ、茅ヶ崎で没した萬鉄五郎が四十二年の生涯において、画家として活動したのはわずか二十年ほどでした。しかしながら、その間に国際的水準と云っていい質と量の作品を生み出した萬は、独自のやり方でモダニズムを問い、またその答えを見出そうと果敢に試みました。それは、日本という文脈であればこそ生まれてきた、特異で比類ない画業であったといえるでしょう。

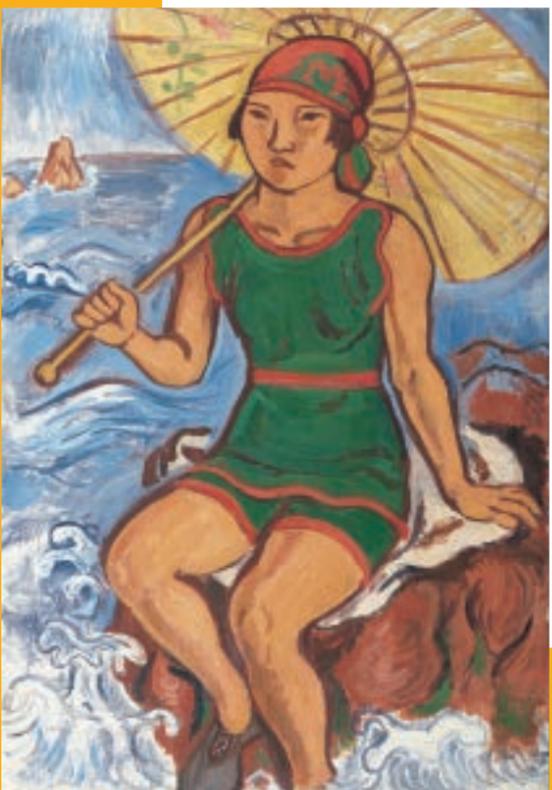


僕によって野蕃人が歩行を始めた。——「鉄人独語」より

没後九十年を記念して開催する本展は、国内でも二十年ぶりの大規模な回顧展となります。今回の展覧会では、従来あまり注目されてこなかった水墨画にも焦点を当て、油彩画、水彩画の代表作に加え、素描、版画のほか、制作のプロセスを示す周辺作品や資料など出品総数約四百点によって、萬が目指した表現の本質に改めて迫るとともに、その稀にみる才能と洞察力に恵まれた画家の創作の原動力を探ります。



筆のリズム、墨のリズム、無論それは人のリズムである。——「玉堂琴士の事及び余談」純正美術一九二三年七月号より

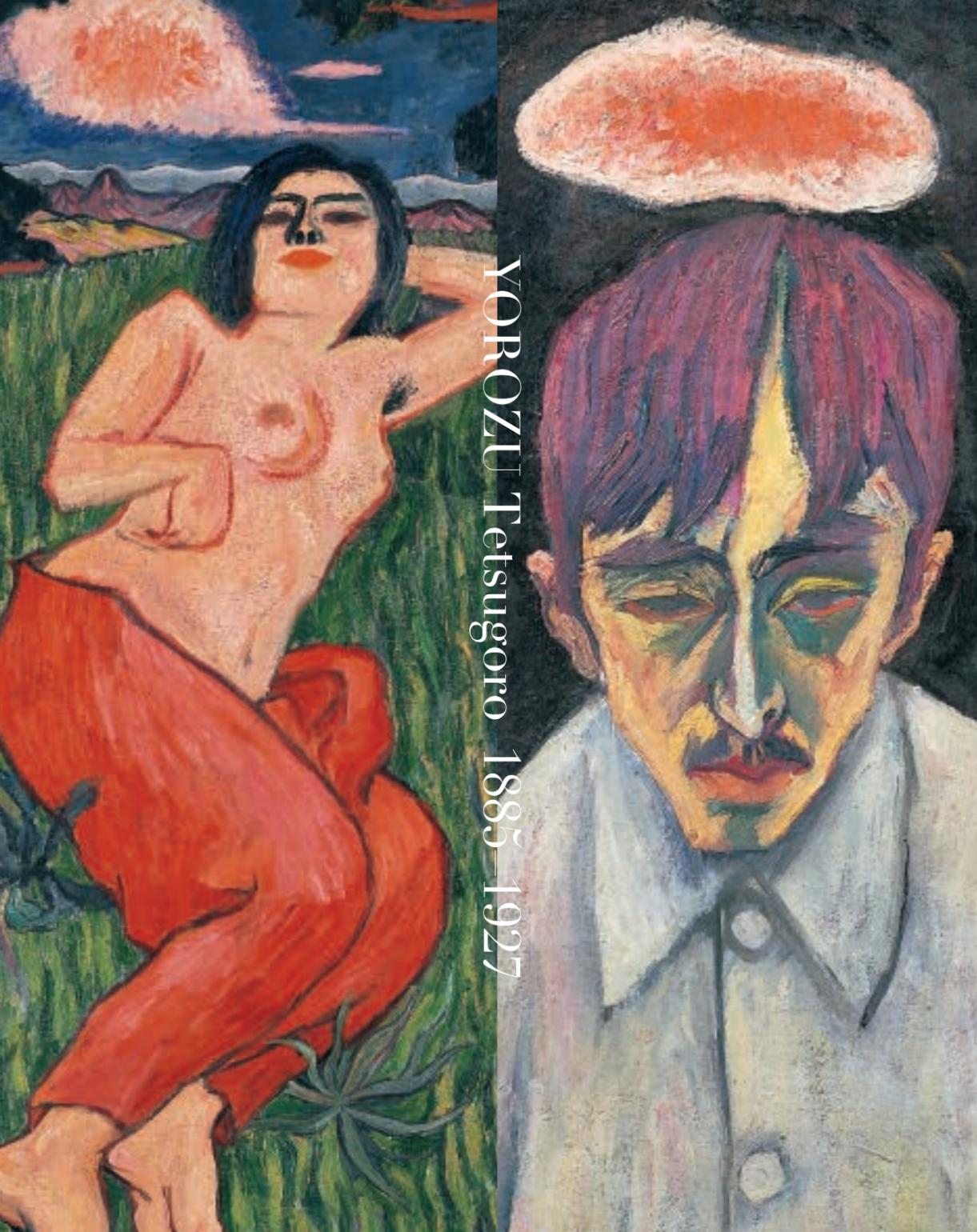


僕が目をあけてゐる時は、即絵をかいてゐる時だ。

# 没後九〇年 萬鉄五郎展

「二〇二七年七月一日(土)——九月二日(日)」

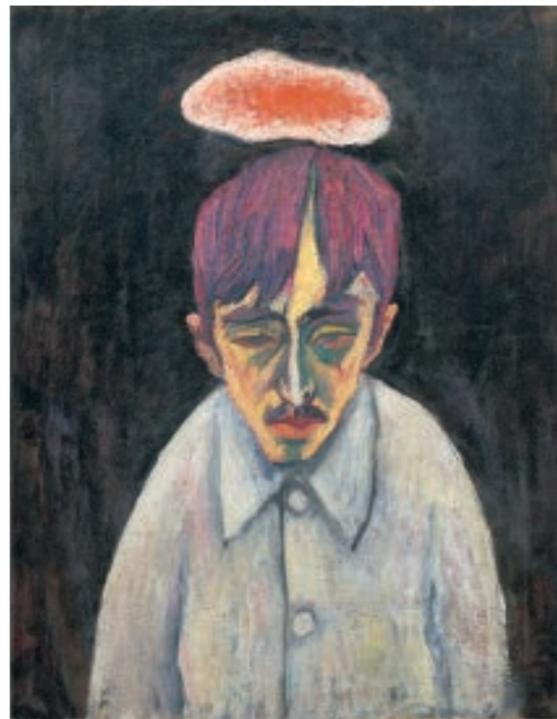
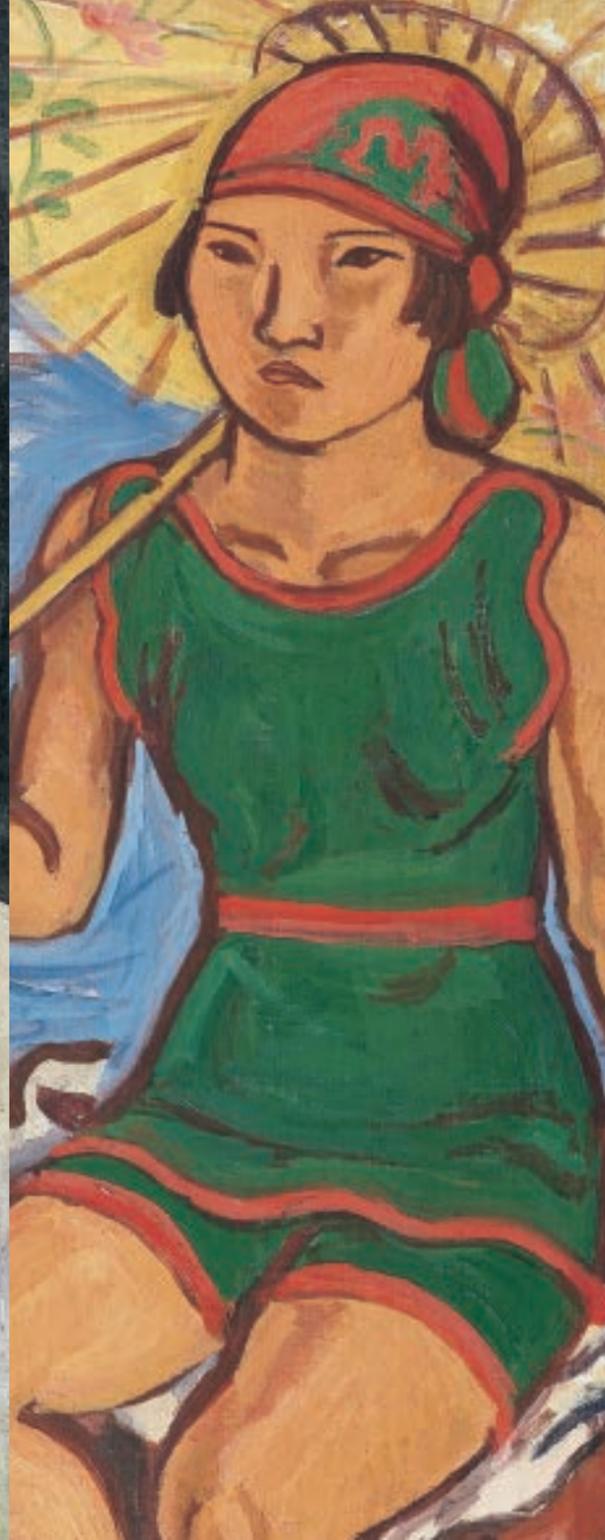
神奈川県立近代美術館 葉山



YOROZU Tetsugoro 1885-1927

満ち、不満だ。お前はなんだ。ただおれだ。唯それだけだ。

「鉄人独語」より



《雲のある自画像》  
一九二二—二三年(明治四五—大正二)年頃

岩手県立美術館蔵

**関連企画** | すべて申込不要、参加無料。ただし展示室で行われる企画は、本展の当日観覧券が必要です。

<p><b>巡回館担当学芸員によるトーク</b> 巡回先の担当学芸員とともに、本展覧会を解説します。 講師：平澤広(萬鐵五郎記念美術館学芸員)</p>	<p>7月2日(日) 午後2時—3時 <b>展示室</b></p>
<p><b>館長によるギャラリートーク</b> 「萬鐵五郎／その創造の秘密」</p>	<p>7月16日(日) 午後2時—2時30分 <b>展示室</b></p>
<p><b>担当学芸員によるギャラリートーク</b> 「雲煙飛動の人／萬鐵五郎」</p>	<p>7月30日(日), 8月5日(土), 27日(日) 午後2時—2時30分 <b>展示室</b></p>
<p><b>子どものためのワークショップ</b> 本展に合わせて製作した「わくわくゆったりグッズ」を使ったワークショップを行います。</p>	<p>7月21日(金), 8月4日(金), 18日(金) 午前11時—12時 <b>美術館中庭 ほか</b></p>
<p><b>近代美術館入門講座「萬鐵五郎と湘南」</b> 講師：長門佐季(当館主任学芸員)</p>	<p>7月15日(土) 午前10時—11時 葉山町福祉文化会館 大会議室 共催：葉山町</p>

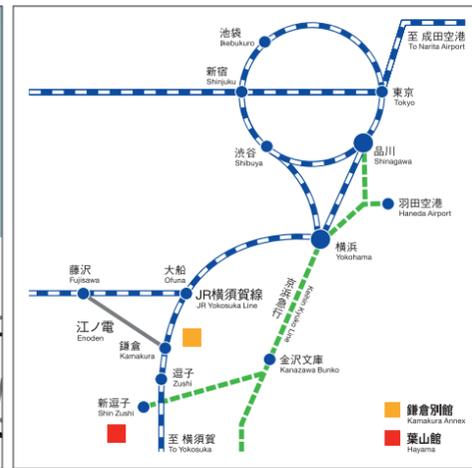
**【葉山への交通案内】**

**電車・バス**

JR横須賀線「逗子」駅前(3番のりば)  
または京浜急行「新逗子」駅前(南口2番のりば)から  
京急バス「逗11、12系統(海岸回り)」で  
「三ヶ丘・神奈川県立近代美術館前」下車。  
(所要時間約20分)

**車**

横浜横須賀道路・逗子I.C.から  
逗葉新道経由で7.6km、  
横須賀I.C.から県道27号横須賀葉山線経由で7.2km。



**葉山館駐車場のご案内**

- 営業時間：午前8時30分—午後6時(入庫は午後4時30分まで)
- 駐車料金(1時間/追加は30分ごとに加算)：
  - 普通車 600円(7・8月の平日)
  - 1,000円(7・8月の土日祝)
  - 400円(9月)
  - 大型車 1,800円(7・8月)/1,200円(9月)

※「萬鐵五郎展」観覧券をお持ちの方は1時間半(7・8月)/1時間(9月)無料です。レストランやショップで2,000円以上ご利用頂いた方は1時間無料です(併用で最大2時間半[7・8月]/2時間[9月]無料)。  
※貸切バス(定員11名以上)でご来館の場合、駐車場の事前予約および前道路の通行許可申請が15日前までに必要です。団体名、連絡先、来館日時、台数をご連絡ください。

**没後90年 萬鐵五郎展 会期：2017年7月1日(土)—9月3日(日)**

**主催：神奈川県立近代美術館、東京新聞**  
**開館時間：午前9時30分—午後5時(入館は午後4時30分まで) 休館日：月曜日(7月17日は開館)**  
**一般1,000(900)円/20歳未満・学生850(750)円/65歳以上500円/高校生100円**  
\*会期中、一部展示替を行います(前期：7月1日—30日/後期：8月1日—9月3日)  
\*( )内は20名以上の団体料金です。/中学生以下と障害者手帳等をお持ちの方(および介助者原則1名)は無料です。  
その他の割引につきましてはお問い合わせください。  
\*ファミリー・コミュニケーションの日(毎月第1日曜日：今回は7月2日、8月6日、9月3日)は、18歳未満のお子様連れのご家族は割引料金(65歳以上の方を除く)でご覧いただけます。  
\*8月6日は「会話を楽しむ日」とします。小さなお子様連れの方も遠慮なくお話ししながらご覧ください。

**神奈川県立近代美術館 葉山**

〒240-0111  
神奈川県三浦郡葉山町一色2208-1  
電話番号046-875-2800

http://www.moma.pref.kanagawa.jp  
公式ツイッターアカウント@KanagawaMoMA

**【同時開催】**

**鎌倉別館 | 建築家・大高正人と鎌倉別館**  
9月3日(日)まで

**【次回開催】**

**葉山館 | 生誕160年 マックス・クリンガー版画展**  
**コレクション展 1937—モダニズムの分岐点**  
9月16日(土)—11月5日(日)